

平成22年度文部科学省指定事業

「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」から学ぶ

キャリア教育のすすめ

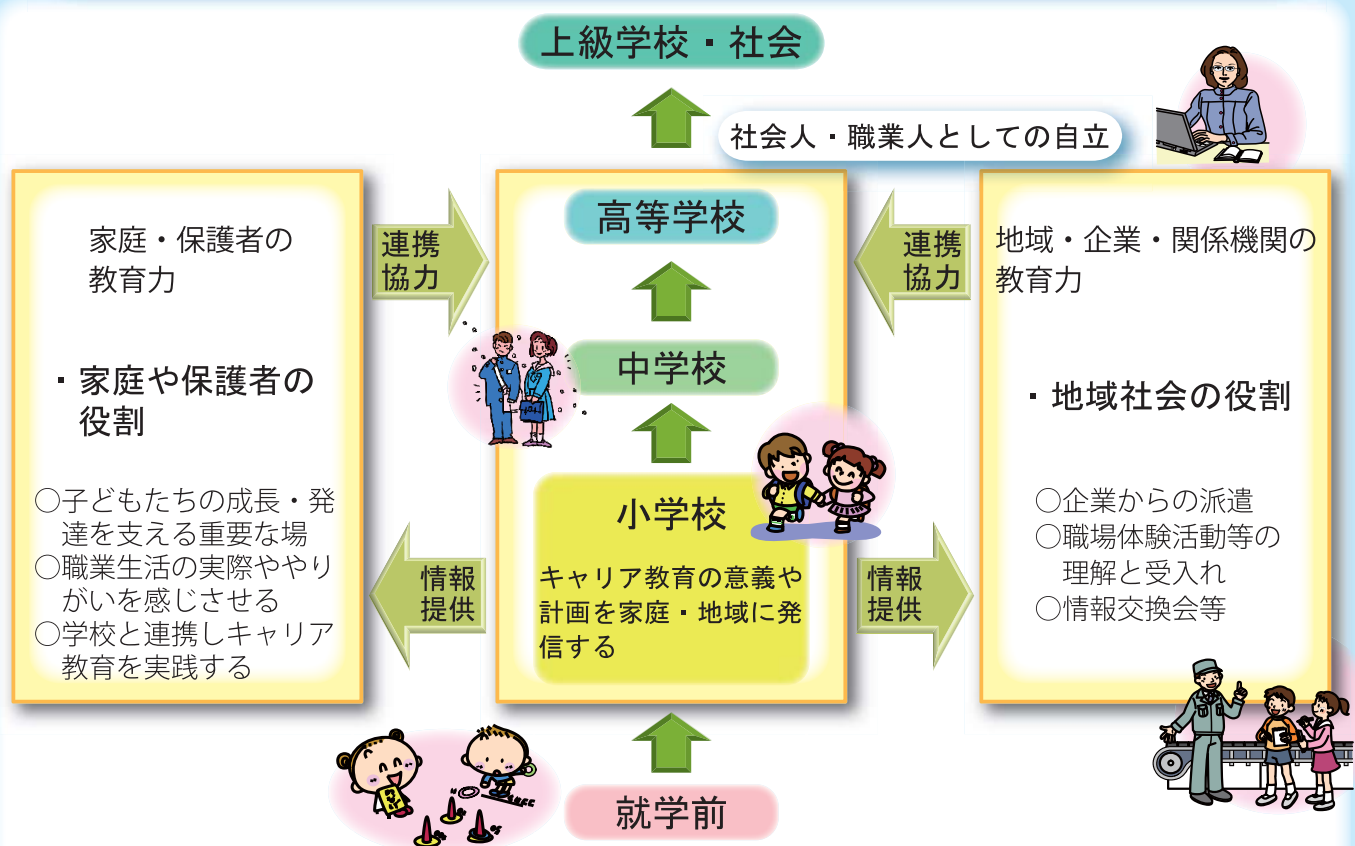
～学校種間の連携について・職場体験活動の充実に向けて～



平成23年3月
徳島県キャリア教育推進会議

小学校・中学校・高等学校の連携と家庭・地域との連携

キャリア教育は、一人一人の生き方にかかわる教育であり、キャリア形成には一人一人の成長・発達の過程における様々な経験や人との触れ合いなどが総合的にかかわってきます。



学校種間の連携を図りましょう

キャリア教育では、小学校・中学校・高等学校の12年間にわたる継続的・発展的な取組が期待されています。小学校・中学校・高等学校における学年間の移行や、小学校から中学校、中学校から高等学校などの学校種間の移行には連続性を保つことが重要です。

児童、生徒のキャリア発達を促す大きな成果が期待できる教育活動(例えば職場見学・職場体験・就業体験)が学校種間の連携がないまま系統性、発展性を欠いた取組として実施されれば、それらは、児童・生徒にとっては新鮮さに欠け、かつ目的意識の低い活動、受入事業所等にとっては負担感が募る活動となってしまいます。

具体的な手立て

- ◇異なる学校種の教職員が集まる研究会等を活用し、相互の情報交換、キャリア発達認識の共有、指導内容の系統的、発展的な接続を図りましょう。
- ◇上級学校への入学前に、学校間連絡会等で個々の児童・生徒のキャリア発達に関する引き継ぎを行いましょう。
- ◇中学校区ごとの、小学校・中学校キャリア教育担当者連絡会等を定期的 to開催しましょう。
- ◇中学校の職場体験発表会等へ校区内小学校高学年児童が参加しましょう。
- ◇ポートフォリオの継続的活用を図りましょう。

<参考>

- ・「小学校キャリア教育の手引き」
文部科学省 平成22年1月
- ・「キャリア教育の更なる充実のために」
国立教育政策研究所生徒指導研究センター
平成23年2月

キャリア教育を十分に展開するためには、家庭との連携のほか、地域や関係機関との連携も必要不可欠です。

職場体験活動の充実に向けて

～中学校の3年間を見通した事前学習・事後学習の工夫・充実～

職場体験活動を一過性のイベントにすることなく、また、あいさつ・マナー講習、発表会等の直前の指導・直後の指導にとどまらず、将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考えることができるよう、キャリア発達の支援の視点から、3年間を見通して、系統的に事前学習・事後学習を実施していくことが重要です。

はじめに

キャリア教育の効果的な導入のために、
小学校での取組を把握しましょう！

- ・校区の小学校からの情報収集
- ・1年生からの聞き取り など



事前学習

(例) 中学校1年生

将来の夢や職業、働くことなど、
自分の生き方について考える。

Point

- * 具体的な活動を通して、身近な人々の職業や生き方に触れ、自分の将来や仕事を考えることができるようにすることが重要です。

直前の指導

(例) 中学校2年生

職場体験活動のねらいを理解し、
自分の課題を明らかにする。

Point

- * ねらいや課題を十分に理解させることが大切です。
- * 生徒個々の興味・関心と職場での体験内容等を踏まえ、教師が判断し、体験先を決定するのが適当でしょう。



職場体験活動

(例) 中学校2年生



保護者や体験先と連携し、生徒をしっかり見守り、かかわろう。

Point

- * 体験先の方々に趣旨や意義を伝え、生徒への接し方、体験のポイントなど、共通理解と情報共有が肝要です。
- * 教師は、体験先を訪問し、生徒の変化を観察し、不安なことや困ったこと等を聞くなど、見守り、励ますことが大切です。

(5日間例)

1日目 緊張

- ・ 緊張、不安、意欲

2日目 仕事を覚える

- ・ 仕事の流れが分かる
- ・ 周囲の大人の立場等が理解できる

3日目 仕事に慣れる

- ・ 分からないことが聞けるようになる
- ・ 自分から進んで行動し、役割を果たすことができる

4日目 創意工夫

- ・ つまずき、失敗、新たな発見

5日目 感動

- ・ 自分や大人を客観的に見つめる
- ・ 達成感を感じる

直後の指導

(例)中学校2年生

職場体験活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する。

Point

* 体験から学んだことを文章にまとめたり、発表し合ったりすることで、一人一人に働くことや学ぶことの意義を考えさせるとともに、体験や学びを生徒間で共有化することが大切です。

事後学習

(例)中学校3年生

職場体験活動の経験をもとに学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら、自分の進路を考え選択していく。

Point

* 自分なりの将来像を実現するために何をすべきかなど、職場体験活動での学びを自分の将来に向けての学習の意欲付けや進路決定に生かしていくことが重要です。

職場体験活動の成果

- ・ 自己理解の深まり
- ・ 人間関係の深まり
- ・ 生活や学習の基盤づくり
- ・ 勤労観・職業観の深まり
- ・ 学習意欲の高まり
- ・ 生活環境への肯定的な認識の深まり など



<参考>

「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育」
国立教育政策研究所生徒指導研究センター
平成21年11月

Q & A



職場体験活動に当てる時間がなかなか取れないのですが・・・

総合的な学習の時間を生かしましょう！

総合的な学習の時間における探究的な学習の一環として、職場体験活動を位置付けることは、3年間を見通した系統的・発展的なキャリア教育実践の有効な方策の一つです。生徒が自ら職業や自己の将来にかかわる課題を設定し、自らの力で解決に取組、その結果として生徒一人一人が自己の生き方を真剣に考える学習活動が展開されることが求められます。

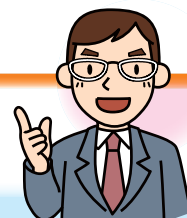
<参考>「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育」 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成21年11月



生徒の希望する職種がなかなかないのですが・・・

キャリア発達の段階から見れば、中学校時代は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の現実に向き合うことが大切です。中学生は社会的な経験が十分ではないために、意外と仕事を知らないものです。生徒が希望した事業所で体験することが必ずしも第一優先課題とは限りません。教育委員会や商工会等の関係機関との連携によって、できるだけ多くの事業所から協力を得ることは重要なことですが、学校が設定した事業所等で体験させ、そこから社会を知る機会とする方策も積極的に検討してみてもいいかもしれません。その中で、知らなかった仕事や社会を知ることができ、仕事や働くことへの視野が広げられ、高等学校での活動(インターンシップ：将来進む可能性のある職業に関連する就業体験活動)につないでいくことができます。

職場体験活動は、生徒にしっかりとしたねらいをもたせることが重要です。また、職場体験活動のねらいや目的について事業所側にも十分理解していただくことが重要なポイントとなります。生徒の希望を優先しない場合には特に、その理由や意図についての理解を得ておくことが不可欠です。



徳島市(渋野小学校・南部中学校)の取組

これまでの成果と課題

- 推進校の小・中学校で情報交換を進め、小中連携ではぐくむ勤労観・職業観の学習プログラム作成の基礎ができた。
- 徳島市キャリア教育推進協議会の発足によって、職場体験活動に協力していただける事業所開拓の糸口を得ることができた。
- 小学校におけるキャリア教育の推進に加え、中学校と連続・接続してカリキュラムを組み、小・中学校の連携の中で、段階的に児童・生徒を育てていくことが望まれる。
- 職場見学や職場体験活動における受入れ事業所の開拓や実施及び関係機関との連携協力による事前・事後指導等、システムが構築されていない。

1 本年度の研究課題

- (1) 小・中学校において体系的・一貫的な教育活動を実施するための全体計画・指導計画の作成に関する取組
〔発達段階を考慮し、児童・生徒の実態把握から小・中学校の全体計画、各学年の年間指導計画から、9年間を見通したキャリア教育計画を作成する。また、発達段階に応じて、問題解決的な学習を計画的に組入れ、生き方探求を行う。〕
- (2) 小・中学校における体系的・一貫的な職場体験活動の実施に関する取組
〔受入れ可能事業所にアンケート調査、事業所バンクで受入れ事業所を確保、事前・事後指導の講師に関係機関職員や受入れ事業所職員を講師として派遣する人材バンクづくりを模索する。〕

2 取組内容

小学校

- キャリア教育プログラム（全体計画・年間指導計画）の実施と授業改善
- 「コミュニケーション能力」育成の視点に立った全教育活動の改善・充実
- 全学年でキャリア教育に資する「夢はぐくみタイム」の設定

小・中学校

- 中学校との連携システムの構築
- 小・中合同研修会の開催
- 育てたい力の一貫の共通課題
- 発達段階における課題の設定
- 重点課題自己チェック
- 小学校での職場体験発表会

中学校

- ゲストティーチャーによる講演
マナー講座
- 実体験による職業選び
- 職場体験活動（5日間）
平成22年10月18日から22日まで
169名・61事業所



職場体験活動事後指導・校内発表会
1年生・事業所・保護者参観
(南部中学校)



南部中学校職場体験発表を聴講
(渋野小学校)



職場体験活動（南部中学校）

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- キャリア教育の視点から教育課程を見直し、小学校と中学校の連携システムの構築を図ったことで、交流の機会が増え相互理解が深まり、発達段階に応じて身に付けさせたい力が明確になった。
- 発達段階に応じ、小学校・中学校の共通課題（「あいさつ」「わからないことを聞く」）を設定し、自己評価を定期的に行ったことで、児童・生徒への意識が深まりつつある。
- 徳島商工会議所等関係機関の協力を得て、事業所開拓が進んでいる。
- 職場体験活動及びその事前・事後学習は、児童・生徒のコミュニケーション能力育成に大いに寄与した。
- 徳島市教育委員会が中心となり、徳島商工会議所等関係機関との連携ができ、事業所開拓、事業所バンク・人材バンク設立ができた。
- 徳島市小・中学校キャリア教育研修会を実施し、徳島市内の小・中学校へ成果と課題の発信ができた。

(2) 課題

- 小学校・中学校の一貫的な指導体制の充実と体系的な指導展開の工夫・推進。
- 発達段階に応じた身に付けさせたい力の見直しと態度化の推進。
- 新しい事業所の開拓と受入れ事業所の長期的な関係づくりや事業所バンクの充実。

阿南市(福井小学校・福井中学校)の取組

これまでの成果と課題

- 将来、望ましい勤労観、職業観を身に付け、主体的に進路を選択・決定し、自立していくための「素地づくり」を小学校で行い、中学校では、各事業所での職場体験活動を通して自己を見つめ、将来に対する展望を明確なものにしてきた。
- 地域産業への情報がまだ少ないことと、職場体験活動の期間を増やすことが課題である。

1 本年度の研究課題

ふるさとを愛し郷土を担う人材の育成をめざして
～小中学校連携によるキャリア教育の推進（発達段階に応じたキャリア教育）～

2 取組内容

小学校

第3学年(福井のすばらしさを見つめる・働く意欲を育てる)
・福井のじまんを見つめよう(町探検)
・敬老会参加
・ルネッサンス訪問
・道徳「ことぶき園に行ったら」

第4学年(正しい職業観・働く意欲を育てる)
・社会科見学(駐在所・消防署・クリーンセンター)
・人権学習「干のこはは仕事のこはは」

第5学年(文章を簡潔に表現する・伝える力を育てる)
・新聞に学ぶ・新聞から学ぶ
・新聞記事のスクラップ・記事についての感想やコメント
・校内外を題材にした新聞作り

第6学年(福井を支えてきた、竹を知り、親しみ、活用する)
・竹の学習
・竹とんぼづくり
・若竹元気太鼓(竹太鼓)公演

小・中学校

- 相互交流学習
・職場体験活動
・全町運動会
・ふるさと人権フェスティバルなど

中学校

第1学年(キャリアプランニング能力)
・先人の生き方に学ぶ交流会・竹ぼうきづくり体験

第2学年(人間関係形成・社会形成能力)
・職場体験活動(2日間)・新聞づくり(職場体験活動のまとめ)

第3学年(課題解決能力)
・職場体験活動(3日間)・高等学校体験入学・進路指導

小中連携によるキャリア教育の流れ

働く意欲の育成



町探検

まとめる力



消防署見学

ふるさとを誇りに思う気持ち



新聞づくり



若竹元気太鼓



先人の生き方に学ぶ交流会



小学校での職場体験活動



福祉施設での体験活動



新聞づくり講習会

3 本年度の成果と課題

(小学校)

- 児童は、仕事をするうえでの笑顔の大切さや汗が仕事の成果のあかしであること、文章で表現し伝えることの難しさを学んだ。地域特産物や竹の加工の難しさを知り、加工品の利用を披露することも行った。

(中学校)

- 3年生でも職場体験活動を行い、体験期間を増やすことができた。また、小学校が職場体験活動を受入れていただけたことで、小学校の先生に生徒の成長を見てもらう機会ができ、キャリア教育の連携を一つ進めることができた。
- 地域産業での職場体験活動が不足している。事業所が受入れ可能な時期を考慮して、年間計画を作成する必要がある。家庭や地域との連携を強化し、職場体験活動の意義等の周知徹底を図る必要性がある。小学生と中学生が相互に交流する体験活動を充実させていく必要がある。

美馬市(岩倉小学校・岩倉中学校)の取組

これまでの成果と課題

- 小学校では、給食食材の自給自足の体験活動を通して、仲間と協力することの大切さや汗を流して働くことの素晴らしさを学び、最後までやり遂げることで充実感や達成感を実感できた。さらに、中学校との交流活動や教職員間のつながりなど連携を深め、児童の関心・意欲を中学校にどうつなげていくかが課題である。
- 中学校では、28年間取り組んでいる「花づくり」を通して、地域にもそして生徒自身の心にも美しい花を咲かせてきた。こうした地域とのつながりをより確かなものにするため、第2学年において職場体験活動を実施することにより、将来を見据えた進路選択・進路決定の素地を育てることができた。今後は、小学校との交流・連携を深めるとともに、体系的な進路指導へと発展させていくことが課題である。

1 本年度の研究課題

- 体験活動を基盤にした、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進（小学校）
- 学校の特色を生かした地域ですすめるみんなの職場体験活動の推進（中学校）

2 取組内容

小学校

体験活動を重視した、食育における給食食材の自給自足
(実践例：6年生)

○豆腐づくり

昔から伝わる豆腐づくりの体験を通じて、日本の食文化の伝統を継承する大切さ、その苦労ややりがいを実感する。

いつも食べている豆腐って、こうやってつくられていたんだなあ。心を込めておいしい豆腐をつくらないと！



豆腐づくり

小・中学校

○先輩との体験活動

- ・中学校の伝統、花づくりの体験
- ・中学校文化祭への参加
- ・中学校2年生の職場体験発表会へ
小学校6年生の参加

○教職員間の交流



小6生と中1生の交流

中学校

1年次：自己理解と職業観の基礎を培う。

○職場訪問聞き取り活動

2年次：自己の特徴と職業の世界を照らし合わせて、自己の適性を考える。

○職場体験活動の実施(3日間)

平成22年11月24日から26日まで
校区及び近隣の事業所(16か所)

○福祉施設での体験活動

平成23年1月25日

3年次：職場聞き取り学習、職場体験活動を生かし、将来を見通した進路選択・進路決定



職場体験活動の様子②



職場体験活動の様子①

3 本年度の成果と課題

(小学校)

- 中学校との連携では、児童・生徒間の交流を通して、児童の中学校生活への意欲や期待が高まり、学校生活で責任ある行動がとれるようになってきた。
- 今後は、中学校との連携をより一層深め、「学ぶこと」や「働くこと」の意義を実感できる体験活動を充実させ、成果をより確かなものにしていく。

(中学校)

- 職業に関する基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、仕事の厳しさ・やりがいや社会への貢献等について身をもって体験をすることができた。
- 小学校との連携では、小学校6年生との栽培活動や職場体験発表会への招待等を通して、中学校生活へのスムーズな移行と、中学校1年生で実施される職場訪問での聞き取り活動につなげていく。

キャリア教育関係資料・情報

◆文部科学省

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」報告書
 「中学校職場体験ガイド」
 「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」
 「高等学校におけるキャリア教育推進に関する調査研究協力者会議」報告書
 「小学校 キャリア教育の手引き」
 「中学校 キャリア教育の手引き」
 進路指導・キャリア教育について

平成16年 1月
 平成17年 1月
 平成18年11月
 平成18年11月
 平成22年 1月
 平成23年 3月

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

◆国立教育政策研究所

「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」小学校におけるキャリア教育推進のために
 「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育」中学校におけるキャリア教育推進のために
 「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育」高等学校におけるキャリア教育推進のために
 「キャリア教育」資料集 研究・報告・手引編

平成21年 3月
 平成21年11月
 平成22年 2月

<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21career.shiryoku/21career.shiryoku.htm>

◆労働局

・ハローワークにおいて
 キャリア探索としての働くことの意義や職業の社会的役割、多様な働き方に関する実態、フリーター、ニートの問題点等、職業意識の形成を行う職業講話を実施しています。
 また、ジュニアインターンシップ実施事業所の開拓についても必要に応じ実施するとともに、事業所及び学校との調整を行います。

調査研究校

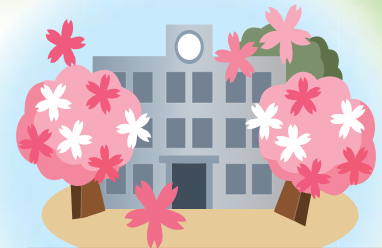
<徳島市>

○徳島市渋野小学校

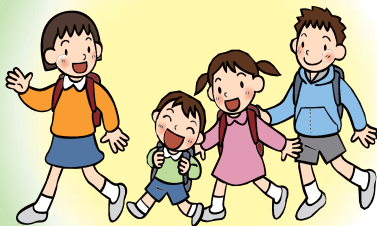
所 在 地：徳島市渋野町西池35番地の1
 電 話：088-645-0003 ファクシミリ：088-645-0394
 学校HPアドレス：http://tgn.tcn.ne.jp/~sibuno_es/

○徳島市南部中学校

所 在 地：徳島市勝占町外敷地62番地
 電 話：088-669-0724 ファクシミリ：088-669-1491
 学校HPアドレス：http://tgn.tcn.ne.jp/~nannbu_jh/



各校の取組については、各学校のホームページに掲載されています。ぜひご覧ください。



<阿南市>

○阿南市立福井小学校

所 在 地：徳島県阿南市福井町大西192番地の1
 電 話：0884-34-2013 ファクシミリ：0884-34-2097
 学校HPアドレス：<http://www.infoeddy.ne.jp/~fukuisyo/>

○阿南市立福井中学校

所 在 地：徳島県阿南市福井町大西141番地
 電 話：0884-34-2234 ファクシミリ：0884-34-2237
 学校HPアドレス：<http://www.infoeddy.ne.jp/~bamboo21/>

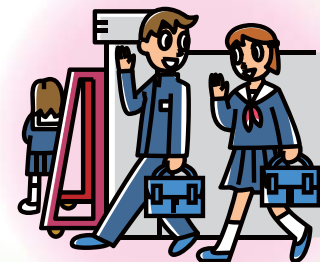
<美馬市>

○美馬市立岩倉小学校

所 在 地：徳島県美馬市脇町岩倉2879番地
 電 話：0883-52-1249 ファクシミリ：0883-55-0750
 学校HPアドレス：<http://www.city.mima.ed.jp/iwakurashou/>

○美馬市立岩倉中学校

所 在 地：徳島県美馬市脇町別所3406番地
 電 話：0883-52-3303 ファクシミリ：0883-55-0764
 学校HPアドレス：<http://www.city.mima.ed.jp/iwakurachuu/>



このパンフレットについてのお問い合わせ

徳島県立総合教育センター 〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1-7
 電 話：088-672-6419 ファクシミリ：088-672-5109 Eメール：kensyu@mt.tokushima-ec.ed.jp